

平成29年度 農業科（資源動物科）

教科	農業	科目	動物活用	単位数	2	年次	3
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

動物活用では、『動物を活かして用い、効果のあるように利用する』ために必要なことを学習します。

2年次で学んだ動物の解剖と生理を基礎に遺伝と育種や繁殖について、野生動物学や農業経営学についても理解を深めます。また、動物愛護論や動物関係法令、動物倫理を理解したうえで、動物の行動と社会、しつけと訓練、問題行動と予防・対策法についても学習します。そして、身につけた知識や技術を動物の飼養管理実習及び普段の実生活や社会に活かしていくことを最終的な目標とします。

2 学習の到達目標

- 動物の遺伝と育種・繁殖を理解する。
- 動物飼育にかかわる関係法規について理解する。
- 野生動物学・農業経営学について理解する。
- 動物の行動と社会について理解する。
- 動物のしつけ・問題行動と予防・対処法について理解する。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・技能
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の特性及び動物関係法規に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・動物の行動学と人との関わりに関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の育種・繁殖など飼育計画や経営管理について考えることができる。 ・動物の行動学を理解し、現代社会との関わり方や新しい活用について考えることができる。 ・動物の問題行動やしつけに関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の育種・繁殖など飼育計画や経営管理に必要な技術を習得している。 ・動物を飼育していくうえでの、しつけ・問題行動の予防策や対処法を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物関係法規および農業経営学について正しく理解し、知識を身につけている。 ・動物の行動学と現代社会との関わり方を理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	遺伝と育種	遺伝の基礎・遺伝的統御	○	○	○		a: 動物の特性及び動物関係法規に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 動物の育種・繁殖など飼育計画や経営管理について考えることができる。 c: 動物の育種・繁殖など飼育計画に必要な技術を習得している。 d: 動物関係法規および農業経営学について正しく理解し、知識を身につけている。	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価
	繁殖	計画生産・雌雄判別・繁殖技術	○	○	○	○		
	病気と感染	異常の発見と初期対応・感染症 主な人畜共通感染症とその予防法	○		○	○		
	動物飼育に関わる関係法規	狂犬病予防法・家畜伝染病予防法	○		○	○		
2 学期	動物飼育に関わる関係法規	絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律	○			○	a: 動物の行動学と人との関わりに関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 動物の行動学を理解し、現代社会との関わり方や新しい活用について考えることができる。 c: 動物の育種・繁殖など飼育計画や経営管理に必要な技術を習得している。 d: 動物関係法規および農業経営学について正しく理解し、知識を身につけている。	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価
	野生動物学	生物多様性について 鳥獣害について	○	○	○	○		
	農業経営学	動物とお金の話	○	○	○	○		
	動物の行動と社会	動物行動学・行動の進化 自然選択 犬と猫の行動と社会	○	○	○	○		
3 学期	動物のしつけと訓練	動物の社会化 しつけの基本 動物の活用目的と訓練	○	○	○	○	a: 動物の行動学と人との関わりに関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 動物の問題行動やしつけに関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。 c: 動物を飼育していくうえで、しつけ・問題行動の予防策や対処法を習得している。 d: 動物の行動学と現代社会との関わり方を理解し、知識を身につけている。	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価
	問題行動とその予防と対処	犬・猫の社会を利用した問題行動を起こしにくい飼育環境	○	○	○	○		

※表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。